

Ironman Taiwan 2012(2012/11/3)参戦記

喜田 文雄

今年は、徳之島、佐渡、そして台湾の3レースでしたが、濃密な1年だったように思います。初出場の徳之島は、来年も参加したいレースの1つになりました。10年ぶりに出場した佐渡は、距離、タフさ、暑さ、それらの全てがどんな大会よりハードなレースかな、と再認識しました。いつまでもチャレンジし続けられたらいいな…、と思う憧れの大会になりました。

さて、台湾に行ってきました。

「ゴールでスーパードライが待っているよ〜」のキャッチフレーズに誘惑され、またこの時期にまだレースが楽しめるという魅力にそそられエントリーしたのでした。

しかし、京都はすっかり秋めいてしまい、その上、佐渡で燃え尽き症候群になり、冷めた状態で出発しました。

台湾は、ちょうど九州と同じくらいの広さで、故宮博物館のある台北は福岡、高雄は鹿児島だと思ってください。レースの開催されたYOHOビーチリゾートは指宿あたりになります。YOHOへのアクセスは、伊丹〜成田経由〜高雄便に乗り、高雄空港からYOHOへは大会に斡旋してもらったタクシーで往復します。関西からは、関空〜台北便を利用する手もあるのですが、台北〜高雄までは国内線あるいは、新幹線を利用しなければならず、バイクを引っ張っての移動の苦労を考えると、前者の方が楽かもしれません。待ち時間も含み、行き帰りの移動に丸2日かかり、YOHOに着いたのは深夜、出発は早朝、とYOHOでの滞在は2日しかありませんでした。石垣島のお隣の国やから近い、と思っていたのですが、やっぱり海外でした。



ホテルにAM1:00頃に着いてバタンキュー。寝坊したいのを我慢して起きだし、バイクを組み立て、ホテル内にある大会本部でエントリーを済ませ、朝昼兼用の朝食。面した海は、サンゴの磯が続き、泳げそうにないのですが、眺めはすばらしいレストランでした。昼過ぎに、10km離れたスイム会場となるビーチに、バイク受託のためにバイクに乗って移動します。サンゴの磯の続く海岸線の道路は、これまた素晴らしい眺め、帰りはシャトルバスが送ってくれました。バスを待つ間、近くにあった食堂、多分、地元の人たちしか絶対に行かなそうな食堂でしたが、麺類と缶ビールをいただきました。いつもそうなんですけど、高そうなレストランではなく、地元の味が楽しめるチップな食事をするのが私たちのたびの楽しみの一つです。住んでいる人と言葉を交わし、人情を知るのも楽しいですね。甘めのしょうゆ味と、あっさり鶏がらスープの2種類の麺をいただき、あ〜あ、台湾に来たんだなあ…、と実感しました。

今年から、カーボパーティーが無くなり残念でしたが、前夜、成田のJALのラウンジでシャンパンから始まり、呑み食い放題をやってしまい、その上、今朝も飲み食い放題と、胃袋に余裕はなかったです。スタートも6時と早いので、早々に寝る事にしました。

3時半にモーニングコールを頼み、朝食は、ホテルが用意した弁当で済ませ、シャトルバスでスイム会場に向かいました。

海水温 24℃、24.5℃以上はウエット禁止なので、ギリギリセーフ。海水は生暖かく感じたのですが、早朝の風は涼しく、トライウェアでうろうろは寒かったです。ウインドブレーカーぐらい持ってくるべきでした。レースは、6時に30名ほどの男女プロがスタートして、15分後に、1500名以上のエイジグループとリレーのスイマーが一斉にスタートします。400m沖に泳ぎ、右に100m、そして400m折り返しを2周回です。エイジのスタートまでに、既にプロたちは2周目に飛び込んでいきます。1500名一斉スタートなので、混雑をさげ、左から右から遠ざかりスタートしたのでマイペースで泳げたのですが、ちょっと遠回りしすぎました。と、思ったのは、バイクで昌子になかなか追いつかなかったからです。海は、底が見えるほど、透明度抜群の砂浜で、サーフィンできそうなうねり以外は泳ぎやすい珠洲のようなきれいな海でした。

バイクコースは、前述のように海岸沿いの道から、内陸の農道のような道路と続く道を2周半する90kmのコースです。多少のアップダウンはありますが、フラットなスピードの出しやすいコースです。風だけが敵でした。昌子になかなか追いつきません。40km地点で、やっとプリティーなかわいいお尻を発見。しかも余裕たっぷり。やばい、かなりスイムで離されたな、残り50kmのアドバンテージではかなりやばい…。

選手のバイクは、さすがアイアンマン。皆様、気合もお金もかけています。私のCayoさま、昌子のFELTが地味に見えます。LUMINAから飛び出してきたような最新式のTTフレームにディープリムからディスクで着飾ったスーパーバイクがわんさと走っておりまして。抜かれもしましたが、抜きもしました。やっぱりバイクじゃないなあ～、足かもしれんなあ～。



ランコースは、バイクフィニッシュから海岸線を7km南に下がったYOHOリゾートホテルの前をパスし、そのまま南に7km往復後、YOHOリゾートホテルゴールの21kmです。やしの木陰からのぞく、真っ青な海にうっとり、浜風に暑さを癒されました。

しかし、のんびり楽しんでいる訳にはいきません。今にも追いつかれるのではないかと、ハラハラドキドキしながら、恐怖におののきながら走ります。折り返しで、初めて距離表示14kmが見えると同時に、ターミネーターが見つかる。その差、約600m。「ぶんちん、待っとれよ!!」と引導を渡すドスの聞いた声に震え上がる。残り7kmもある。これはアカンわ。追いつかれたら、一緒にゴールせえへん、と擦り寄るか…、とつい弱気になるのですが、そんなこと言ったら、これから先ずっと頭があがらん。男の孤剣にかかわる、と気を取り直し、7kmのロングスパートやとスピードを上げたつもりでしたが、100mも行かんうちに息があがる。追い抜かれた兄ちゃんに離されんように気を取り直して頑張っけて付いて行くが、徐々に後ろ姿が小さくなっていく。また抜かれるが、しかし、前の選手の姿が心なしか大きくなったような気がする。ああ、ポチポチ俺も老眼が始まったか…、いや待て、ホンマに近づいてきてるやないかい、追いつき追い越す。…???…、こんな経験初めて。俺がランナーを追い越すなんて前代未聞。未体験ゾーン。歩いてる人を追い越すことはあっても、走ってる人は初。16kmの表示が見えてきました。残り5km、まだ来ません。ヤングなお姉ちゃんが追い抜いていきます。プリンプリンのお尻を見てたらダメ。下を向いたら、腰が引け遅くなる。顔を上げろ。胸を張れ。腰から足を出せ。またまた前方の姿が大きくなってくる。また追いついた。なんだか気持ちいい～、エクスタシー～。ランでがががんパスする西川くんもこんな気持ち？18km表示が見えてきました。振り返る余裕はありません。小指に豆ができた模様。そして左にも、痛いのを我慢して頑張る。元気の出そうなハードなロックが聞こえてきました。巧みな日本語を操るウイット・レイモンさんのジョッキーが聞こえてきました。ゴールはもうそこ…。逃げ切れませんでした。

レベルの低い内容で、恥ずかしい限りでございます。しかし、おかげをもちまして、私は年代別 6 位でゴール。表彰されました。昌子は 7 位で表彰を受けました。なにしろ 10 位まで表彰されるという大盤振る舞いの大会なものでありがたい。2 つの盾は、我が家の食卓で燦然と光り輝いております。

昌子は、今年、愛南町、双海町で総合 2 位と 3 位の二つの盾を既に頂いていますが、アイアンマンのロゴ入りの方が重みがあり、よりうれしいそうです。確かに日本人 2 割、他はアジア、欧米からの参加者での順位やから心ならずも自慢してしまいました。すみません。アハハ…。

朝早いぶん、ゴールも早く、さっそく昼間っからスーパードライを味わいながら、本場の台湾マッサージの順番を待ちます。快晴の青空、澄んだ青い海、さんご礁の海岸を次々ゴールする選手の歓声。青い目、黒い目、光輝いています。

酔っぱらう前に、バイクをピックアップして、シャワーを浴びて、アワードの食事をレストランのベランダで頂き、余韻に浸ります。子ぶたの丸焼きにスーパードライはよく合いますね。またまた、呑み食い放題、やめられません。

翌早朝、迎いのタクシーで 5 時に空港に向かいます。行きは、バイクの超過料金を何とかゴネてまけてもらったのですが、帰りは問答無用で 9000 円支払いました。しかし、脅したわけではないのですが、昌子の JAL グローバルクラブのおかげか、超過料金の埋め合わせのつもりか、ビジネスクラスに乗せてくれました。マイルでタダ乗りやから最初は申し訳ない、と思ったのですが、シャンパンから始まり、エビスビール、ワイン、山崎 12 年、レミーマルタン…、普段呑みなれん酒ばかりやから呑めるものは何でも呑みまくり、「お強いんですね」と言われても遠慮せずに呑みまくり、田舎もん丸出し。あ～あ、大吟醸呑み忘れた、しまった。

やっぱりアイアンマンは楽しい。来年、私は、60～64 のエイジに昇格します。スーパーじじいがわんさとひしめくカテゴリーです。頑張るぞ～。盾は励みになりそうです。

【レース結果】

| | | | | |
|----|----------|------------|------------|------------|
| 文雄 | S; 43:49 | B; 2:48:20 | R; 2:11:08 | T; 5:43:16 |
| 昌子 | S; 35:37 | B; 3:06:53 | R; 2:04:57 | T; 5:47:26 |

この大会のスポンサーでもあり、エイジ 2 位、見事な成績で完走された CEEPO 田中社長とスリーショット。

